

病原体の侵入・拡散防止のための効果的な小型野生動物・害虫対策の検討

研究課題と内容 対策マニュアル策定に向けた畜舎等における野生動物及び害虫の生態に関する調査研究

- 研究① 各種論文検索データベースから農場のネズミ等に関する知見を幅広くピックアップし、リサーチギャップを特定するための基盤となるプライベートデータベースを作成することを目指す。プライベートデータベースの作成に当たっては、1700 件以上の文献情報を検索する。
- 研究② 現在各農場でとられているネズミ対策をアンケート調査し、各農場がネズミ対策にかけ得るコストや労力などを把握することで、マニュアル策定に伴う制限を明瞭にすることを目指す。アンケート調査について2つ以上の自治体に存在する20以上の農場から回答を得る。
- 研究③ 上記の収集で得られた知見を結集し、ネズミ対策マニュアルを策定するために必要となる試験研究を3個程度設計することを目指す。

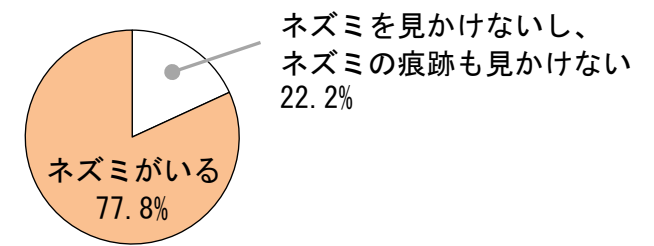
研究①成果 右記4, 573件の情報を含む  
プライベートデータベースを作成した

| データベース | PubMed | SCOPUS | Web of Science | EBSCO |
|--------|--------|--------|----------------|-------|
| 論文収集数  | 1543   | 5514   | 2776           | 4941  |

研究②成果 39の自治体に存在する468件の農場から回答を収集した

ネズミの有無

2021年にネズミ対策にかけた費用



| 家畜種 | 単位 (円)  |         |          |
|-----|---------|---------|----------|
|     | 牛       | 鶏       | 豚        |
| 中央値 | 10, 000 | 20, 000 | 100, 000 |

ネズミ対策の方法

| 対策方法   | 割合    |
|--------|-------|
| 自分で    | 65.0% |
| PCOに依頼 | 13.0% |
| 対策せず   | 22.0% |

農家が自分で行える方法が必要

- ネズミがいることを前提とすることが必要
- 研究③成果 ネズミ対策マニュアルを策定するために必要となる試験研究を、下記のように3個設計した

- ・ 畜舎内外におけるネズミの動態を把握する  
「どこ」で「どのように」生活しているか  
他の野生動物との関連性  
捕獲数に基づいたモニタリング法の有用性
- ・ 殺鼠剤・捕獲材の効果的な利用方法の確立  
装置や設置法の改良  
忌避反応のメカニズムの理解
- ・ 新たな防除技術の検討  
フェロモンや超音波の利用  
海外技術や他の野生動物に適用されている技術の利用

研究機関: 小型野生動物対策マニュアル策定に向けた基盤的研究コンソーシアム  
国立大学法人東京大学 研究総括者: 清川 泰志